

## 2 入来小学校の実践

### (1) これまでの具体的な取組

#### ① あいさつ

##### ア 学校での取組

平成17年度からは登校時に交通安全指導とともに、職員が毎日通学路に立ち、児童に対してだけではなく、そこを通る全ての人にあいさつをする運動を実施している。

また、朝のあいさつ、帰りのあいさつ、お客様に対するあいさつ、特に朝と帰りのあいさつについては、子ども達より早く教職員が自ら先に行くなど、積極的なあいさつの指導を行っている。

更に子ども達は、曜日を指定して各学級毎に当番を決め、毎日、校門の前で、登校してくる児童に対してあいさつ運動を実施している。

##### イ P T A等による取組

子どもから募集したあいさつに関する標語を使った昇り旗を作成してあいさつ運動を行うなど、これまでP T A活動の一つとして取り組んできた。

また、清色地区コミュニティーで立ち上げていただいた防犯組織による防犯を主目的とした立哨活動と連携して、P T A会員による朝のあいさつ運動を兼ねた立哨活動を1日の人数、場所を減らして、期間を長くし、回数が多くなるように工夫して実施した。

#### ② 返事

全教育活動の中で、「名前を呼ばれたらはっきりと返事をする。」ことを徹底するように全職員で共通理解して、担任を中心にして指導を続け、自分の意志をはっきりと相手に伝えることが出来る子どもの育成を目指している。

#### ③ 家庭学習の習慣化

次時の学習内容と関連づけた課題を与えるなど、授業と家庭学習を連携させた課題の与え方の工夫や各学年一貫した内容の工夫などに取り組み、共通理解を図り実践するとともに、優良な取組については賞賛し、紹介することに努めている。

また、入来地域全体で実施している家庭学習調査とは別に、毎月、各家庭独自の目標を設定する項目を含んだ家庭学習調査を実施することにより、子ども達の帰宅後の生活リズムを整えることに取り組んでおり、家庭学習については、各学年に応じた目安となる家庭学習時間を設定するなどして、その習慣の定着、充実に努めている。

### (2) 共通理解、共通実践等

#### ① あいさつ

低学年・・・立ち止まり、大きな声であいさつ

中学年・・・立ち止まり、相手の目を見てあいさつ

高学年・・・立ち止まり、心をこめてあいさつ

#### ② 返事

名前を呼ばれたら「はい」という返事、「ありがとうございます」という感謝の心

#### ③ 家庭学習

宅習時間の確保（低学年 30分以上、中学年 45分以上、高学年 60分以上）

### (3) P T Aや地域への啓発や具体的な取組

入来地域では全小中学校で「あいさつ」「返事」「家庭学習」を共通の実践事項として取り組んでいることを、運動会、学習発表会、学級P T A、学校便り、清色地区コミュニティーの防犯委員会等、機会ある毎に啓発してきた。

また、本校では平成16年度から「家庭学習調査」として生活リズム調査を実施しており、

※ 平均的家庭学習時間が各学年の目安となる目標時間を下回る。

※ 5割以上の児童のテレビ視聴（ゲームを含む。）時間が1日2時間以上となっている。

※ 学年が上がるにつれて帰宅時間が遅くなっているにもかかわらず、テレビ視聴等の時間が増える傾向が見られ、就寝時間が遅くなっている。

などの課題が明らかになった。

これらの課題解決のために、平成18年度からは先ほども述べたように毎月「家庭学習調査」を実施している。

その結果、生活リズムに関する子ども自身の意識、保護者の意識も高まり、各調査項目の結果も次第に改善されてきている一方、調査の目的や意義をしっかりと認識できていない家庭もあるのが実態である。

家庭学習の習慣化、充実を図るためにも、家庭学習調査の意義を保護者が理解することが欠かせないことであると考え、保護者への啓発をP T Aを中心に組み組んでいくこととし、分かりやすい言葉で分かりやすく伝えることに取り組んだ。

#### ① P T A役員への啓発

啓発運動を様々なP T A活動の場面でP T A全体の運動へと展開させるために、まずは役員正しい理解が欠かせないと考え、総務委員会での説明や啓発資料の事前検討などを数回にわたって実施した。

#### ② 啓発資料の作成と学級P T Aでの啓発

啓発資料を作成し保護者に配布するとともに、この資料をもとに学級P T Aで学級委員長に説明してもらった。

#### ③ 意識調査

P T Aによる家庭学習に対する意識調査を保護者全体に実施した。

### (4) 成果と課題

立ち止まって相手を見て、あいさつができる子どもがほとんどであるが、声が小さかったり、教職員にはできても、地域の人々にはなかなかできない子どももまだ多い。

名前を呼ばれたら返事をする事は、ほぼ徹底されているが、声が小さかったり、しっかりと、はっきりと、自分の意志を示すという意味では、まだ課題を残している。

家庭学習については、各学年で目安としている学習時間を平均で上回る学年が多くなるなど、家庭での取組の成果がでてきている。

また、これらの取組に関する啓発活動をP T A自らが積極的に取り組み始めたことは大きな成果であると考えている。

更に、望ましい生活習慣や学習習慣の習得のために、学校、P T A、地域、特に学校と保護者が連携した積極的な取組を継続することが課題となっている。